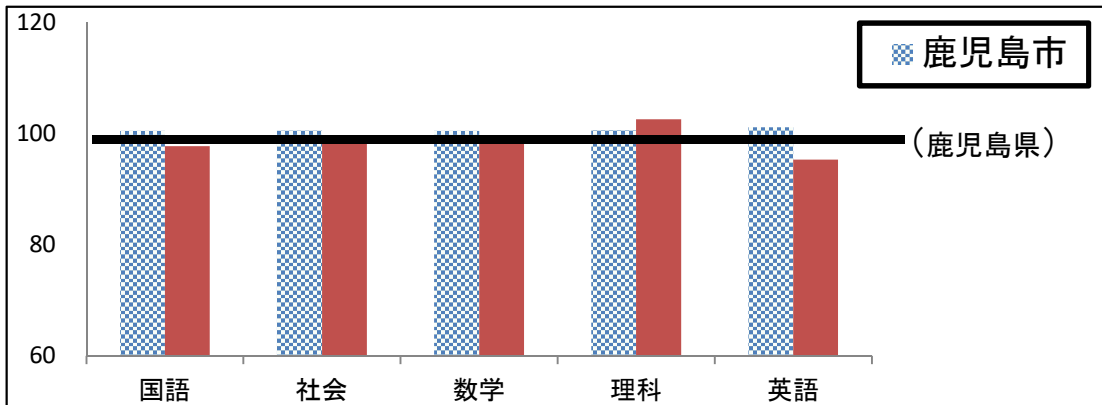


# 令和5年度鹿児島県学習定着度調査結果について

## 鹿児島市立谷山中学校1年

### 1 自校・市・県平均正答率の比較 (R6. 2. 5現在の速報値)

〈 鹿児島県平均正答率を100とする棒グラフ 〉



### 2 自校の課題に対する改善策

#### 〈国語〉

文章を読むことについては通過率が高いが、書くことについては苦手意識をもっており、主述のねじれなど基本的な表現の誤りも多く見られる。特に「根拠を明確にしながら自分の考えが伝わる文章になるように工夫して書く」設問に対して、問題の意図にあった内容を表現できないという課題が浮き彫りになった。様々な資料を読み解き、問いの求めている意図を適切に捉えて表現に結び付けるという、総合的な演習を、機会をとらえて取り入れていく必要がある。

#### 〈社会〉

観点別に見ると、基礎的・基本的な語句の通過率が低くなっている。領域別では地理的分野の「世界の諸地域」、歴史的分野の「古代までの日本」の通過率が低く、地理的分野では「サヘル」「フィヨルド」といった基本的な語句を答える問題や、EUの説明の問題の通過率が低い。歴史的分野では、指定された語句を使って説明をする問題の通過率が低い。基礎的・基本的な語句が定着していない部分があるので、ワークなどを使い反復練習を行う。また、指定された語句を使って説明する問題の通過率が低いので、授業の中で生徒が説明をしたり、説明を書いたりする場面を今まで以上に取り入れて、思考・判断・表現の力を高めたいよう指導を行う。

#### 〈数学〉

観点別でみると、知識・技能については通過率が80%近くでこれまでの学習の成果が表れているが、思考・判断・表現の方は70%に達していない現状がある。領域別で課題をみた場合、数と式では式の値や不等式の表し方、図形では展開図を予想する問題、データの活用では代表値の意味やグラフから考察する問題の通過率が低い。これらの現状を踏まえて、これまで続けてきた導入時の計算問題を工夫するとともに、授業において生徒が自分の考えを出し合い、考察を深めていく活動を取り入れていきたい。

#### 〈理科〉

生物分野に時間をかけ、十分に定着を図ることができたため、生命の分野は通過率が高かった。逆に粒子分野において、時間の関係で実験までできなかった問題の通過率が低かった。地学分野はnavimaを使用し、分かりやすい図の問題を解いたことが成果として出た。授業の最初の時間を使って前時の振り返りを行ったり、レベル別の問題を用意したりするなど、生徒が自らの課題を把握し、学んでいく授業の仕掛けを考える必要がある。

#### 〈英語〉

知識・技能と思考・判断・表現のバランスは取れている。領域別に見ると、聞く力はよく身に付いているが、書くことの通過率が低い。このことから、自分の考えや思いを伝えることが苦手であると推察される。自分の考えや思いを表現する力の育成が課題である。具体的には①相手の質問 (What is your favorite season?) に対して自分の答えを書く問い、②対話の流れや時制を理解し、適切な語を補って表現する問い、に対する正答率が低かった。まずは音読を通して定型文を定着させたのち、ライティング活動に取り組み、文字として認識させる流れを授業の中に取り入れたい。

#### 〈全体的に〉

記述式の問題に対して通過率が低いため、表現活動を多く取り入れ、キーワードをつなげたり、事実と意見を書き分けたりする表現の仕方を身に付けさせていきます。